

歴誌主義 宣言

斎藤成也

科学紀元16年、 学問全体を議論します

「自然界のすべては一回限りのことであり、この宇宙というのは、ビッグバンから現在（ひいては未来）まで流れる一方向の時間軸を持った、ひとつの『歴誌現象』です」（46 ページ）

「今や、古代DNA解析しかり、歴史考古学しかり、文字記録だけを対象としない『歴誌』研究があらわれ、いずれは宇宙の歴誌まで全部さかのぼれる域に達するだろうと、わたしは考えています」（21 ページ）

「生物は進化するほどだんだん悪くなっている、言わば『負け犬説』という考え方に立っています」（133 ページ）

「歴誌を無視する物理学は、自然科学として、**まだまだ底が浅い**といえるでしょう」（54 ページ）

「突然変異を持ち出すと、その変異した遺伝子はランダムに独立に生じるということ、要するにもうそれ以上の説明は要らなくなりま

なんと美しい世界ではありませんか（127 ページ）

す。説明がなくなるというのは、

既成の観念で固まった頭を、 ガタガタ揺さぶる1冊

ウェッジ